

広報 のあさひ

特集 国保

昭和46年3月20日



〈健康診断を受けましょう〉

なんとなくからだの調子がおかしいので、医者にかかったところかなり病状が進んでいた。ということはよくあることです。そういう場合、回復するには、かなりの時間と費用がかかります。そこにも実はムダがあることに気づかなければなりません。現代

の医学は、治療よりも予防ということばがあるくらいです。わたしたちは、自分の健康は自分で守り、もしもどこか悪いところがあればそれはほんの芽のうちに刈り取ってしまおう。という心がけが大切です。そうすることは、医療費のムダをはぶくことにもなり保険税を少しでも安くする結果にもなります。

早期診断・早期治療で 明るい暮し

国保特集

保険税も安くできる

国保の利用を上手に

朝日町国民健康保険の医療費の支払い額が、八千万円をこしたのが、昭和四十三年、その後も増え続け昭和四十五年度の決算は、一億三百四十拾五万円位になる見込みです。医療の内容の充実、家族全員七割給付など、前進する国保の姿はあったにしても、ずいぶん支払額も増えたものです。それにしたがって国の補助金も増えましたが、保険税も増えるのが国保事業の宿命のようです。昭和四十六年度も保険税の増額を余儀なくされております。このまま医療費がふえつづけ、税がふえつづけば、国民健康保険の制度は崩壊の危機にさらされてしまいます。たとえ一円でも、医療費の節約についてお考えいただくため、国保特集号をお届けします。

医療費がふえると税金が高くなる

医療費がどんどんふえると、ということになるでしょう。

患者が窓口で支払う額(医療費の三割)ももちろんふえますし、政府負担分(四・五割)もふえます。

しかし、それはそれなりに処理され、問題は保険税でまかなうことになっている残り二・五割の分です。

医療費がふえると、それにともなう保険税の値上げという形でわたしたち被保険者の肩に、もろにかぶさってくるわけです。

現に医療費は毎年毎年ふえつづけています。

これに対して国民健康保険の財政はともおいつけません。わたくしたちは毎年、保険税値上げの危機に直面しているわけです。

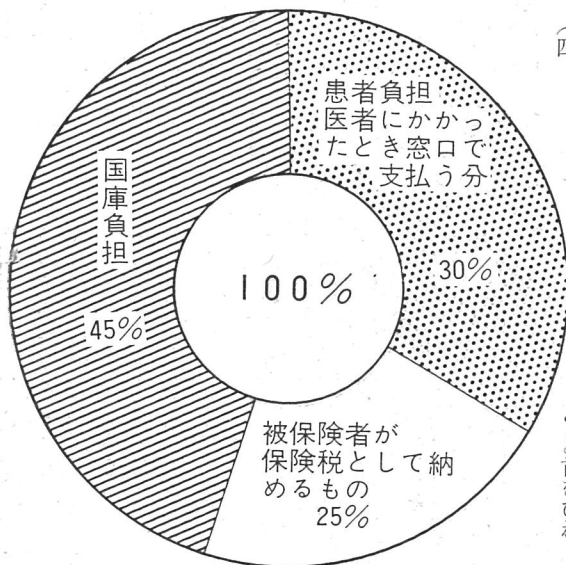
★毎年ふえる医療費

医療費は医療改定で値上げされなくても、放っておいても毎年毎年ふえています。

これを自然増といえます。

朝日町国民健康保険者一人当りの総医療費を昭和四十年から図表にしてみました。(四)

◎医療費は次のような割合で負担されています



被保険者一人当りの総医療費調べ
(45年度は12月分まで)

40年	5,681円	43 "	10,746円
41 "	7,072	44 "	11,846
42 "	8,291	45 "	14,567



十五年は十二月分まで) 医療費の節約をはかりましょうという、はて、どうして節約を?と首をひねる方があられるかもしれません。

お気づきにならないかもしれませんが、わたくしたちの日常生活の中で、医療費はムダに使われている部分が少なくないのです。

たとえば、日本人は外国人に比べて薬を多く使ったがたり、ちよつと治りにくいとお医者さんを転々とかえたりします。こういったことに気を配るだけで、医療費は幾分でも軽減できます。

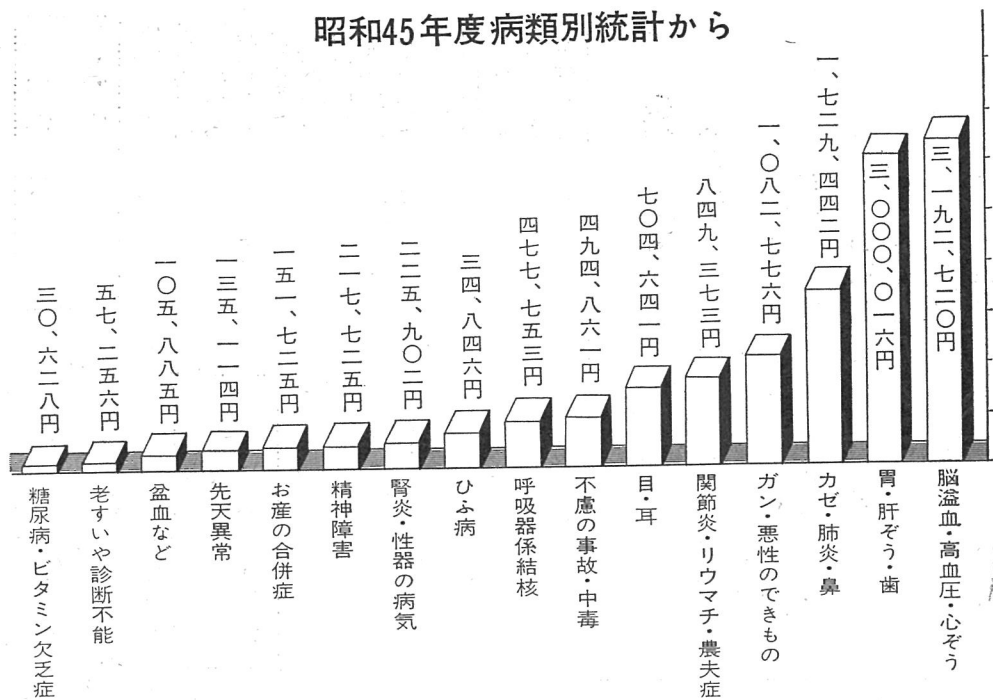
★医療費にもつと

★関心を持つとう

国民健康保険は、三割だけ支払えばお医者さんにかかれるという非常に便利な制度です。

ところがその反面、三割だけ支払えば、というところから、これ

昭和45年度病類別統計から



を利用する人が、ともすれば、三割分が医療費全額と考え、あとの七割分を忘れている方がいるのです。そしてその結果が医療費のムダづかいにつながっているわけです。そうしたことから、もっと医療費の問題に深い関心をもち、医療費を節約するように心がけま

しょう。

病気をはねかえす
抵抗力を

健康生活を守るためには、まずからだに病気をはね返す抵抗力をつけておくことです。

たとえば、インフルエンザの流行期に、少々のビールの体にはいつてきても抵抗力があれば、これをね返して病気をしません。

抵抗力をつけるためには、十分な睡眠と休養、栄養的にゆきといた食事、それから、からだをきたえるための適度の運動などが必要

です。

食事はぜいたくなものをとる必要はありませんが、栄養的にゆきといたもの、つまり偏食をさけあらゆる食物をまんべんなくとることが大切です。主食は少な目に副食を多くするようにしましょう

中年すぎのいわゆる成人病は、食生活に気をつけることが必要で、主食や塩分、動物性脂肪のとりすぎに気をつけなければなりません。食生活改善推進員は各部落におりますので時々話し合いをして下さい

健康診断を

うけましよう

★.....★
集団健康診断などの機会があつ

国保の知識

★ 勤めにてたら
国保をやめる ★

三月四月は、異動のおおひ月で国保から社会保険への加入は特におおひ月です。

学校をめでたく卒業して晴れて社会の一年生へ.....

勤めれば、その官公庁、会社事業所では、それぞれの健康保険へ加入させてくれます。そうすれば国保は抜けなければならぬのです。

その届けは、他の保険に加入してから十四日以内です。

ノ届け出のさいは、国保被保険者証と印かんをお忘れないう

たら、進んでうけましよう。

そういう機会にかかわらず、中年すぎたら、年に一度(できたら二度)は、成人病やガンなどの健康診断をうけたいものです。

わたくしたちはからだに異常を感じなければ、とかく健康に無関心です。しかも無関心のうちに、病気が進んでいる場合が少なくありません。たとえばガン

などがそうで、それを早期に見るのが健康診断です。

早期発見、早期治療につとめましよう。

毎年国保被保険者が五月に治療をうけた分について、「診療報酬明細書」から病類別に分類集計し

☆ さかのぼって
課税もされる ☆

に!

退職などで他の保険をり脱したが、病気をしないので国保に入っていない.....などというこ

とで、何年も国保に加入していない人がたまにみつかります。

この場合は退職の日にさかのぼって、国保資格を得なければならず、したがってその日にさかのぼって保険税が課税されることとなります。

その間もし自費で払った医療費があっても保険給付はされませんので二重の損となります。

【注意!】 【注意!】

統計をとっています。そうしたら、いんぜとして成人病といわれるものの医療費支出の順位はトップでした。

長い長い生活の積み重ねが、このような成人病であるにしても、この出費は家庭経済の大きな損失

です。そこでまず「成人病」にならない工夫をこらすことが先決となります。

その一つは、前に述べたとうり食生活の改善です。ついで無理のない生活態度です。無理はしらず

しらずのうちに、あなたの体をこわしているのです。人間としてリズムのある生活を送りたいもので

す。

広報あさひ

国保特集

昭和43年5月21日第三種郵便物認可

発行所

山形県朝日町役場

発行者

広報委員会

委員長

菅井 雅

月一回10日発行

一部20円印刷

浦山三盛堂

保険税は わが身の保障金

健康な時は大変しあわせです。

そんな場合は、国民健康保険の恩恵も身近かに感じないかも知れません。しかし人間生身、災難や病気は今にもこの身にふりかかるかも知れません。「大きな病気を始めて始めて国保の有難さを感じました」一月二十万円余かかって、三か月入院手術した方の述懐。

保険税は、いざという時のわが身の保障金なのです。

なかには「病気をしたことも、医者にかかったこともないのに、高い税金を出さなければならぬ」

定期診断で まず予防

(成人病予防
週間)



といっていることを耳にします。

「高い高い」というまえに、もし国民健康保険がなかったら、わたくしたちの生活がどうなるか、考えてみようではありませんか。

老人の医療給付 はどうなる

医療保険制度を根本的に改正しようといわれてから二年ほどになります。これは、医療機関の整備へき地医療対策、医療問題、給付改善、老人医療などで、それについて関係団体から、いろいろな意見や案がだされたが、さまざまな問題がからむので、なかなかの議論です。

医療を受け持つ方、うける者の立場は違っても目的は「みんなが健康で文化的な暮らしができること」なのでここに起点をおき、意見を発展させ、よりよい健康管理の道がつくよう願いたいものです。さて、ここで朝日町の国保に目を転ずれば、いま老人に対する保険給付の拡大が問題となっております。

交通事故にあったときは こんな注意を

昨年十二月十五日、朝日町老人クラブ連合会から「老人に無料でお医者にかからせて」と、請願があったが、医療制度改善試案の中でも老人保険制度の設定が立案されておられ、又国保加入老人だけとすれば、町内全老人の公平を欠くなどの点から、町当局として現在検討をすすめております。

すので、被害者が相当の過失が認められない限り過失相殺(賠償金が減額されること)は適用しないことになっていきます。

事故の翌日、見舞品を持って示談書に印鑑をくださいといってくるケースがあります。被害者は好意に圧倒され、押印してしまうことがあります。

これは、どれくらいかかるかが分らない医療費、休業補償費などをバクチにかけるようなもので、うっかり押印したばかりに、もたえる金も受けられなくなったりします。

とかく加害者は、示談金以上の賠償金を免がれることと刑事処分における有利な情状が頭にあるため、被害者を無視して自分に有利なことを考えて、示談をせまることが多いのです。その時は冷静に判断し、軽率な行動は、しないことです。

示談は、事故を円満に解決する和解の手段です。示談を結んでしまうと、双方の合意がないと裁判でもくつがえすことが、不可能です。完全に治癒してから加害者と被害者が納得のいくように、事故のしめくりとして、慎重に行なうことが肝要です。

交通事故は、あとがこわいものです。みんなが交通ルールを守って、明かるい家庭

最近、町内でも交通事故による負傷が増えています。不幸にして事故にあったときは、次に述べることを守っていただきたいと思えます。従来交通事故に保険はきかないという考えがありましたが、これは、ウソで手続きをすれば有効に使えます。いざというときに困らないように覚えておきましょう。

まず、事故にあつて被保険者証を使って保険診療を受けようとするときは、必ず役場の国保係に連絡し、手続きをしてください。事故による負傷は、加害者の加入している自動車損害責任保険(以下自賠責という)から医療費、その他の補償費が出るようになります。しかし、その手続きをして金が入るまでは、自費診療か加害者が立て替えるかになるわけですが医療費の全額、ましてや事故の医

賠償と示談について

加害者の中で、被害者が急に飛び出したからとか、道路の中央でうろちろしていたからとか、被害者が悪いため起きたんだから、自分に賠償責任はないと、はねつける人がいます。他人を負傷させて責任を負わなくても良いとは、どの法律にもありません。自賠法では被害者保護の立場をとつていま